

文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」(静内農業高校)

令和3年度～令和5年度：北海道教育委員会

1 マイスター・ハイスクール事業について

- ・専門高校等と産業界、地方公共団体が一体となって最先端の職業人材育成システムを構築
- ・専門高校等の職業人材育成に係る教育課程等の改善に資する実証的資料を得るための研究開発
- ・指定校に「マイスター・ハイスクールCEO」と「産業実務家教員」を学校外から配置

【マイスター・ハイスクールCEO】高等教育機関や産業界と連携して、取組を総括
 【産業実務家教員】最先端の技術・知識等を生徒に指導

- ・全国で18校が指定を受け、新たな価値を創造する職業人の育成や、学科横断型DX研究による人材育成体制の構築、地域産業を共創できる技術人財の育成などの取組を実施

2 静内農業高校における事業の概要

(1) テーマ

地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～

(2) 事業の目標

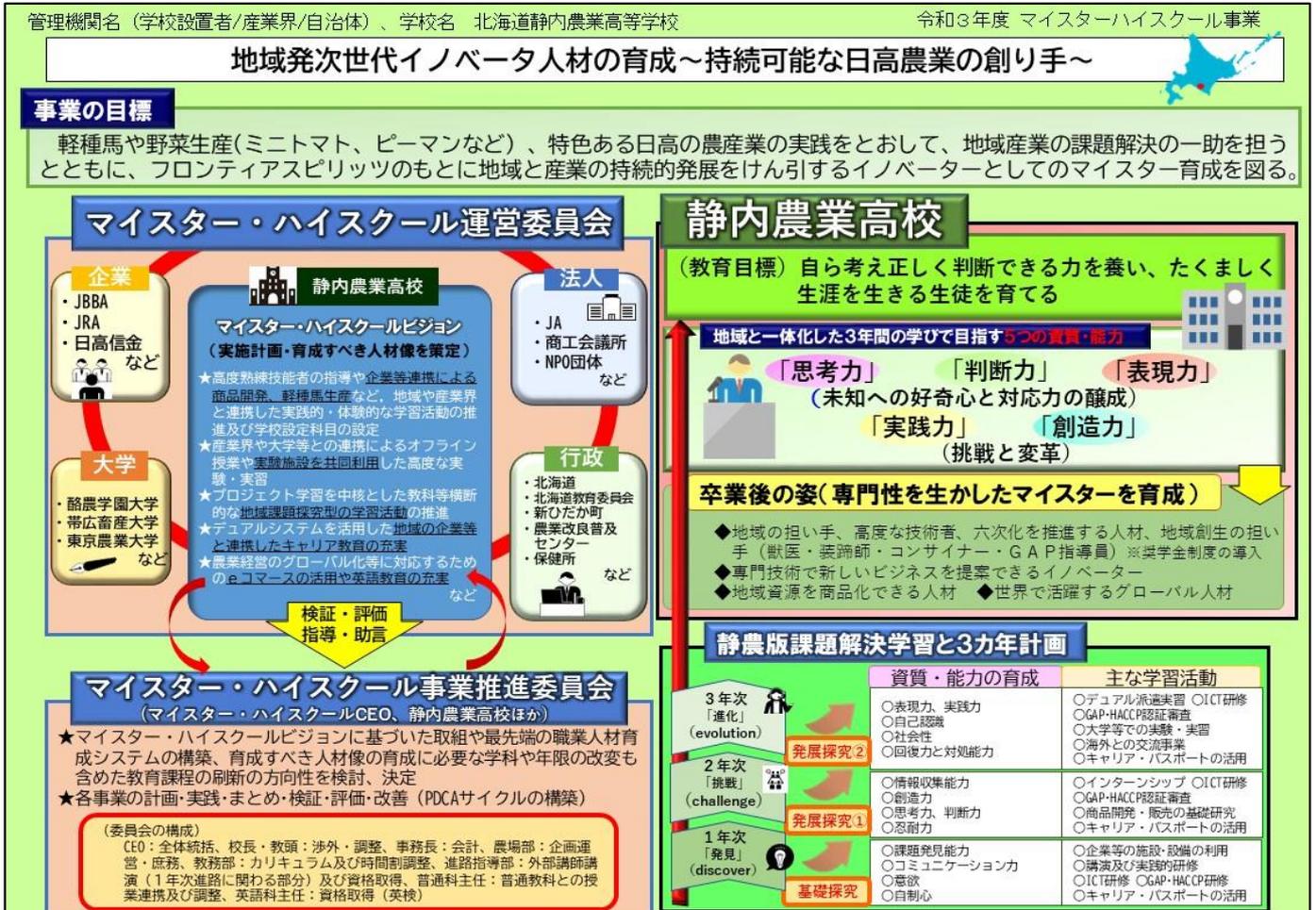
軽種馬、野菜生産や食品加工など、特色ある日高の農産業の実践を通して、地域産業の課題解決の一助を担うとともに、フロンティアスピリッツの下に地域と産業の持続的発展をけん引するイノベーターとしてのマイスター育成を図る

(3) マイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員の配置

	令和3年度	令和4・5年度
マイスター・ハイスクールCEO	農政部生産振興局・技術支援担当局長と兼務	副校長として常勤
産業実務家教員(獣医師)	日本軽種馬協会(JBBA)静内種馬場と兼務	会計年度任用職員として常勤(特別免許状を付与)



<概要図>



3 静内農業高校における主な取組

(1) 主な取組

企業等と連携した取組は、実施時期や内容について、毎年、見直しを実施

ア 生産科学科・園芸コース

- 地域園芸の特性と栽培技術や新たなアグリビジネスの取組に関する講義や演習
- 関係機関と連携したハウレンソウや花き（デルフィニウム）の栽培試験 など

イ 生産科学科・馬事コース

- 馬の管理や獣医療、国内外の馬産業などに関する講義や引き馬実習
- 関係機関と連携した馬の蹄（ひづめ）や乗馬療育に関する研究 など

ウ 食品科学科

- 食品流通の仕組みや食品の安全・安心に関する講義、食品卸売業者の施設見学
- 地域や企業と連携した商品開発、販売 など

エ 学科共通

- 通販サイトを通じた情報発信と販売方法の学習
- インターネットを活用した新しいアグリビジネスの学習
- アメリカの高校とのアプリを通じた英語の交流
- ダムやさけますふ化場など、地域の一次産業理解の学習



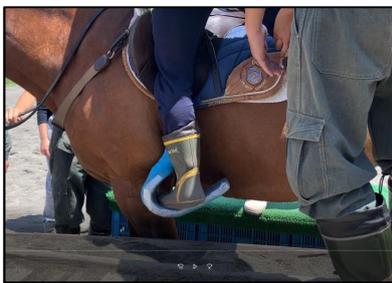
【普及員による野菜の技術指導】
（花・野菜技術センターとの連携）



【専門家による引き馬指導】
（JRA、JBBAとの連携）



【専門家によるチーズ製造指導】
（雪印メグミルク株式会社との連携）



【3D鎧を活用した乗馬療育の実践】
（北海道立総合研究機構との連携）



【新しいアグリビジネスの学習】
（umamill株式会社との連携）



【漁具や昆布漁の実態の学習】
（日高振興局との連携）

(2) 主な連携先

- ・ マイスター・ハイスクールCEOや産業実務家教員が、運営委員会に参画している企業等を通して、コーディネートを行い、連携した取組が実施
- ・ 学校における授業や実習での連携のほか、連携先の施設の見学や活用など、様々な形での連携を実施

学科	連携先
生産科学科	(管内) JAしずない (道内) 北海道農業協同組合中央会、アイデアル株式会社、日本農業新聞
園芸 コース	(管内) JAにいかっぷ、日高農業改良普及センター (道内) 北海道立総合研究機構、花・野菜技術センター など
馬事 コース	(管内) 日本軽種馬協会(JBBA)、日本中央競馬会(JRA)、日高家畜保健衛生所 (道内) 酪農学園大学、北里大学 など
食品科学科	(管内) 日高生産農業協同組合連合会、有限会社あま屋 (道内) 国分北海道株式会社、日糧製パン株式会社 など

4 事業実施前と実施後の取組や学びの変化

本事業の取組前と取組後では、一部の生徒にとどまっていた外部との連携が、全ての生徒に広がったことや、より専門的なプログラムが充実するなどの変化が見られました。

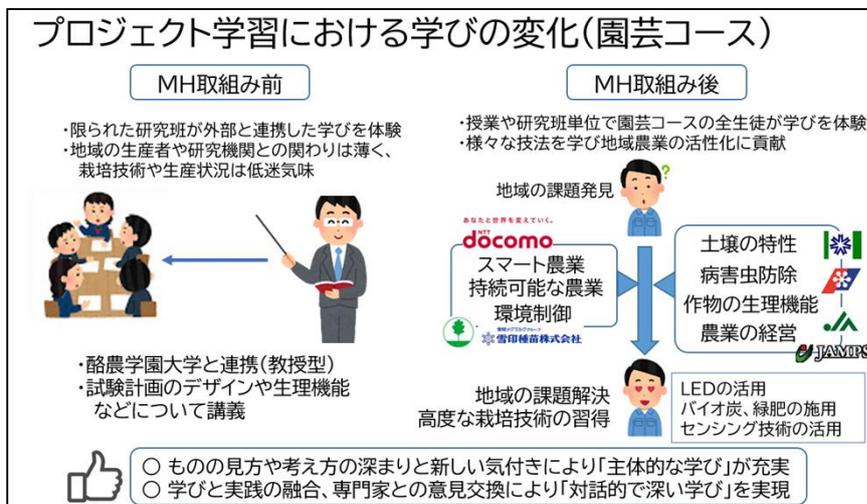
(1) 生産科学科・園芸コース

<取組前>

- ・限られた研究班が、外部と連携したプロジェクト学習を体験
- ・地域の生産者や研究機関との関わりが薄く、栽培技術や生産状況は低迷気味

<取組後>

- ・授業や研究班単位で、全生徒が地域課題の発見や地域の農業の学びを体験
- ・様々な技法を学び、地域農業の活性化に貢献



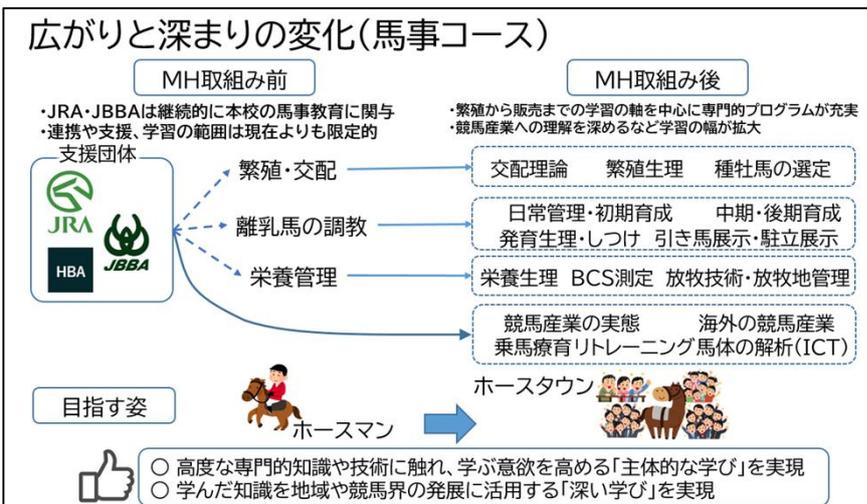
(2) 生産科学科・馬事コース

<取組前>

- ・JRA・JBBAは継続的に本校の馬事教育に関与
- ・連携や支援、学習の範囲が限定的

<取組後>

- ・繁殖から販売までの専門的プログラムが充実
- ・競馬産業の理解を深める学習が拡大



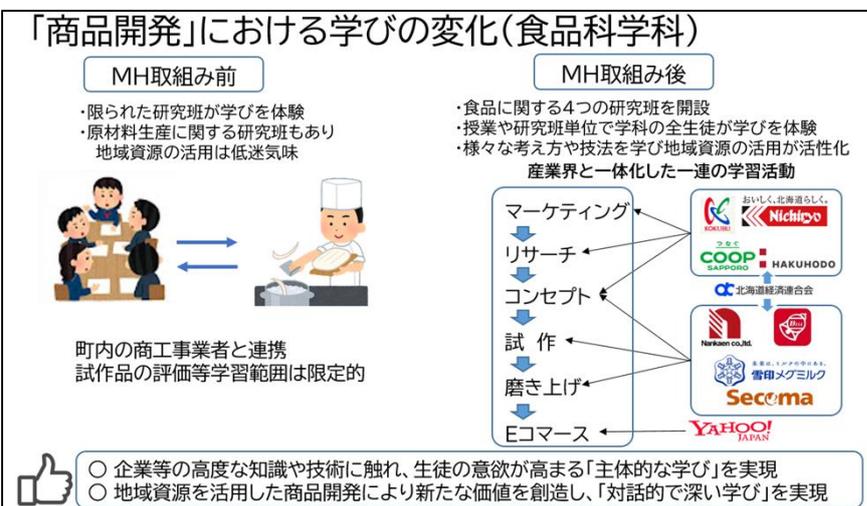
(3) 食品科学科

<取組前>

- ・限られた研究班が、商品開発の学びを体験
- ・原材料生産に関する研究班もあり、地域資源の活用は低迷気味

<取組後>

- ・食品に関する4つの研究班を開設し、全生徒が連携した学びを体験
- ・地域資源の活用が活性化



5 マイスター・ハイスクール事業の成果

(1) 成果発表会

- 各学科の代表生徒による取組の紹介や事業による気付きや学び、変容について発表
- 設定したテーマについて提言を行い、その内容について助言者とグループ別討議を実施
- 参加者からのコメント

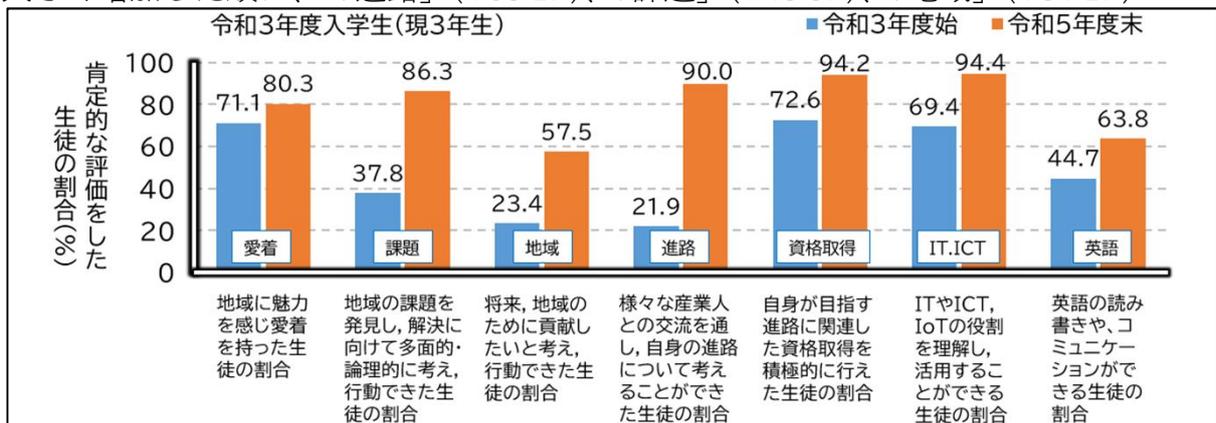
- 生徒たちが様々な関係者との交流、連携を通して学びを深めていく様子が理解できた。地域の課題と学校での学びをつなげる取組だと思う。
- 生徒と地域（関係機関）の大人が互いに意見を交流する活動は、生徒の思考力や創造力を高めるために大変有効であることを再確認することができた。



【グループ別討議の様子】

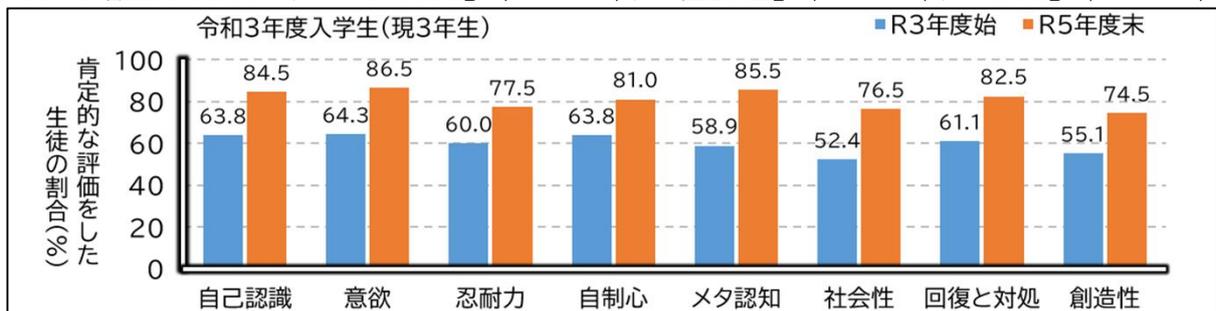
(2) 「定量的目標」に対する評価結果（生徒のアンケートによる）

- 全ての項目で、肯定的な評価をした生徒の割合が増加
- 大きく増加した順に、「進路」(+68.1P)、「課題」(+48.5P)、「地域」(+34.1P)



(3) 「定性的目標」に対する評価結果（生徒のアンケートによる）

- 全ての項目で、肯定的な評価をした生徒の割合が増加
- 大きく増加した順に、「メタ認知」(+26.6P)、「社会性」(+24.1P)、「意欲」(+22.2P)



(4) 教職員の変容（教職員へのアンケートによる）

- 様々な機関との連携により、自分自身の社会とのつながりが増え、専門的な知識や技術が向上し、授業の組み立て方を考えるようになった。
- 生徒が身に付ける資質・能力を意識し、積極的に情報収集を行うようになった。
- 生徒一人一人の個に応じた指導を意識するようになった。
- 地域や企業等との連携が、生徒に多様な視点を与え、農業の学びが深まるほか、進路を考える機会となるなど、連携の重要性を認識した。

(5) 地域や企業の声（運営委員会での発言から）

- 連携した取組の継続には、関係者の理解や協力が必要である。【地域】
- 講義の実施は、社員教育につながるため、支援ではなく、パートナーシップの形で今後も継続していきたい。【産業界】
- 軽種馬は産業全体で人材育成や確保が課題であるため、今後も協力していきたい。【産業界】
- 農業高校だからできる研究に取り組み、地域にフィードバックすることで、地域との関わりを深めてほしい。【産業界】